

# 第1回 防府市防災ネットワーク構築検討委員会

## 議事録等

### ■開催日時・場所

令和5年8月22日(火) 10時00分から11時30分まで  
防府市役所1号館3階 第1会議室

### ■次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長・副会長の選出
- 4 協議事項
  - (1)第5次防府市総合計画に掲げる防災ネットワークの充実強化等について
  - (2)その他

### ■資料等

- ・防府市防災ネットワーク構築検討委員会設置要綱
- ・委員名簿
- ・第5次防府市総合計画(重点プロジェクト)～防災ネットワーク構築について～

### ■出席者名簿(敬称略)

【 区 分 】	【 所属団体名 】	【 氏 名 】
会 長	国立大学法人山口大学	山本 晴彦
副会長	山口県防府土木建築事務所	城一 俊幸
委 員	地方独立行政法人山口県立病院機構	中本 一豊
〃	社会福祉法人防府市社会福祉協議会	伊豆 利裕
〃	小野地域自治会連合会自主防災会	山崎 博英
〃	防府市防災士等連絡協議会	宮本 博史
〃	右田小学校 PTA 会長	上田 育子
〃	牟礼中学校 PTA 会長	横田 さおり

## ■会議録

### 1 開会

---

### 2 市長あいさつ

---

新庁舎の建設をはじめ、国・県・市が連携して各輸送拠点と防災拠点や医療拠点をつなぐ道路網の整備、この防災ネットワークの構築は重要な取り組みと考えている。

県総合医療センターについて、防府市が進めている佐波川右岸広域防災広場の隣接地に建て替えということで、県では、基本構想素案のパブリックコメントが実施されている。この総合医療センターにより、他市にないような防災ネットワークができることを期待している。

それぞれの立場から、また、市民の立場から、忌憚のないご意見をいただき、防災ネットワークの構築を進めていきたい。

### 3 委員紹介

---

事務局から出席委員の紹介

### 4 会長・副会長の選出

---

会長には、山口大学名誉教授山本委員を、副会長には山口県土木建築事務所の城一委員を選任する。

#### 【山本会長】

防府市は、1991年の風台風、1999年の高潮台風、2009年の豪雨災害と様々な災害を体験している。これからも災害は起こり、その規模は強くなる。公助だけでなく、共助、自助をしっかりとしなければならぬ。この委員会は、防災拠点を検討するための重要な委員会である。

### 5 協議事項

---

#### 会議の公開について

- ・ 本日の会議は公開とする。  
⇒異議なし
- ・ 第2回目以降の会議についても、原則公開とする。  
⇒異議なし

#### 会議の記録について

- ・ 会議で出された意見等の概要は、会議終了後、事務局で整理したものを各委員に確認後に、会議の要旨を市ホームページで公表する。  
⇒異議なし

#### (1) 第5次防府市総合計画に掲げる防災ネットワークの充実強化等について

- ・ 議事内容について事務局より資料を用いて説明。

## 委員の意見

### 【 A 委員 】

資料の防災ネットワーク図で、県が関係している事業について説明する。

3番目の県道防府環状線(牟礼地区から国道2号まで)のバイパス道路の整備。4番目の県道防府環状線(新田地区横入川入口からクリーンセンター入口まで)では、防災の観点から、電柱、電線類の地中化を実施。6番目の広域防災広場アクセス道路の整備。防府市の佐波川右岸広域防災広場、山口県の医療センターの移転に伴い、これらに沿った形でアクセス道路を整備することとしており、防災拠点への東西からのアクセス強化、広域的な物流から医療体制の強化に繋がっていくと考えている。

### 【 B 委員 】

市民にとっての防災広場について

私はこの委員会に出て、防災広場の目指す目標があることが初めて分かった。

私の住む小野地域は非常に大きな災害を受けた。災害を受けたときの避難場所の周知徹底をしていなかったことや災害にあった方がどういうものを必要とされているのか、ボランティア手続きはどのようにするのか、道具はどのようなものが必要なのか。災害にあった後の2～3日は何とか対応できたとしても、その後いかに正常に戻っていくのかが大事であると感じた。

そういう意味では、この防災広場はまさに災害が起きた後、どういうふうによく復旧していくかの機能も備えている大きな役目があることを知った。いかに早く復興を早めるかの1つにネットワークが必要である。それぞれ、医療機関、消防署、行政等、機能的にしっかりと連携を取りながら、いかに早く復興に向けていくのかが大事な役目にあると思う。

また、通信網が遮断された時どうするのか、考えなければならない大きな課題だと思う。

### 【 事務局 】

まさに今から、防災広場の整備を進めていくところであり、市の地域防災計画の中に復旧・復興活動等について記載しているが、防災広場の建設にあわせ見直していく必要があるので、ご意見を踏まえながら進めてまいりたい。

### 【 C 委員 】

事務局から防災広場についての説明があったので、一部重複する内容があるかもしれないが、ご指名により発言したい。

なお、センターの機能強化に関する内容は、最終的には県が決定することとなるため、腹案なり私案となる旨でご了解を得たい。

現在、パブコメ中であるが、県の基本構想検討委員会の中では、移転先として全県からのアクセス性がよく、有事の際、市が整備を進めている防災広場と連携が密にできることが望ましいという意見が述べられており、県も、こうした内容を踏まえ、防災広場の隣接地が適地と示されている。

総合医療センターは、基幹災害拠点病院でもあり、こうした検討委員会や県の考えに沿って、患者さんはもとより、地域の方々への対応も含めて、拠点病院としての機能が最大限に発揮できるように、取り組んでまいりたい。

まず、センターと防災広場との連携については、災害医療機能の強化の点から、災害時でも断らない医療の砦となる必要があると考えており、一般的には、ノンダウンホスピタルと言われている。

この実現のためには、他都道府県等からの応援や航空支援を受けるための受援機能の強化、また、地域の方々への避難先確保及び医療が提供できるように、近年、多く見られる自家用車での避難が可能な駐車地・仮設住宅用地の確保及びDMAT等による医療提供体制や医薬品等の供給体制の構築などに取り組む必要があると考えている。

さらには、避難期間が長引く場合も想定すると、健康が維持できるインフラ整備が必要になるものと推測される。

センターとしては、こうした機能について、防災広場と連携がとれれば、大規模災害時においても、地域の方々や患者さんが信頼を寄せる医療の提供が可能になると考えている。

例としては、栃木県の足利赤十字病院が取り組んでおられるが、隣接公園と連携し、ヘリポート、駐車場を設置し、発災時にも対応できるように工夫されている。

また、健康づくりとしても、防災広場との連携を想定している。当センターの医療従事者は、治療のプロでもあるが、健康づくりのプロでもある。

平時では、地域の方々や患者さんのために、防災広場の外縁部を活用し、リハビリ用の散歩コースなり、ジョギングコースなどを設けることが考えられる。

こうしたことで、親しみやすい防災公園やセンターのイメージが定着できるのではないかなと思う。例としては、長野県のJA佐久医療センターが取り組んでおられる。

## 【 D 委員 】

現在、文化福社会館にある社会福祉協議会事務局は、新庁舎の福祉棟に移転する。

移転については、市と同様に令和7年の年明けに供用開始できるように準備を進めている。福祉窓口の一体化ということで、市の福祉の関連と一体的にサービスが出来るため、これまで以上にサービスの向上が図られるものと思っている。

災害の関連について。災害発生後は、ボランティアセンターの運営を社会福祉協議会で行ってまいりたい。これについては、市の災害対策本部等が設置された際には、これまで以上に情報共有がしっかりとできるものと考えている。

文化福社会館の跡地に防災広場が整備されることについて、機能として、ボランティアの集結地、さらには、防災倉庫ということで、災害ボランティアの資材備蓄等もなされていくと考えている。これに加え、その倉庫のみならず、多目的に使える多目的室が整備されればと思う。

平常時には駐車場や賑わいの創出の場として活用する防災広場について、災害時のみならず平時にも使える多目的室があると、充実するのではないかな。

【 E 委員 】

「いろんな情報が住民のところまでなかなか届いていかない」との意見があった。私ども、防災士会も力を入れている。

9月2日には、防災イベントを行うが、女性目線での防災力向上に向けたシンポジウムなどを企画している。住民の方にいろんな防災、知識の普及、あるいは意識を向上するための取り組みを図っていきたい。

文化福社会館の跡地の防災広場であるが、北側の点線囲いがあるところのみの整備に見えるが、そうではなくて、南側の三友サルビアホールも含めた一体的な防災広場としての機能というのも求めていると思うが、いかがか。

【 事務局 】

文化福社会館の跡地広場は、防災広場ということと、今ボランティアの集結地、実際に活動される方が集まれる場所ということで想定している。

ボランティアが来られるのに、全くの更地というわけにいかないので、最低限必要な駐車場、防災倉庫、トイレ、広場を想定している。

委員が言われるように、活動のための会議室のスペースというのはボランティア活動には必要になってくると思うので、検討してまいりたい。

今回、北側しか整備しないような絵に見えるが、災害の規模によって、三友サルビアホールも避難場所になり、ボランティア活動のために使用していただくことになるので、サルビアホールの南側も含めたエリア全体で最適な整備、配置を検討してまいりたい。

【 F 委員 】

メバル公園の防災機能について、もう少し詳しく説明してほしい。

【 事務局 】

防災メバル公園の防災機能について、大規模な災害が起きた場合、ここが山口県の海上の輸送基地として、海から物資を運ぶ基地となる。

耐震性の強い港になっている。荷捌きをする業者など、様々な方々が来られる。それを後方支援するための場所として、このメバル公園に機能を持たせている。

遊具がかまどベンチに変わったり、防災倉庫を設けていたり、携帯電話を太陽光で充電するソーラーパネルなども備えている。防災の機能があることを知ってもらうために、ここを活用した防災教育の場の位置づけになっている。

【 F 議員】

防災を学べる場を、子供たちも含め PR をするための方法を何か考えているか。

【 事務局 】

メバル公園については、社会見学等でもお願いしておるところ、まだまだ多分足りない部分もあると思うので、しっかり小・中学校にアピールしてまいりたい。

防災のPRについて、新庁舎を防災拠点として考えているので、防災の機能はもちろん

のこと、市民の皆様にも、啓発できるようなスペースも設けていければいいなど今のご意見も踏まえ検討していきたい。

【 A 委員 】

先ほどの事務局の説明を補足すると、耐震岸壁について、発災時に物資を輸送する船が着くところは、資料(写真)の上側だけが耐震岸壁になっている。それから、下の駐車場等に向かって緊急物資、災害物資を保管する。メバル公園は、いろいろ防災機能、かまどベンチなどがあり、潮騒市場にはマンホールトイレなどがある。そういった関係になっている。

【 G 委員 】

小学校、中学校の防災の位置づけを教えてください。

【 事務局 】

市が避難指示、高齢者避難情報を発令した場合、最初に開く避難場所として公民館、次に市内の小中学校という順位になっている。一番身近な避難場所という位置づけを持っている。

【 G 委員 】

公民館でも洋式トイレはまだ少ないので、機会があるならば、洋式トイレを整備すると、小さいお子様からご高齢者の方までいいかなと思う。

【 事務局 】

トイレの整備は公民館も含めて順次進めているところ。児童生徒はもちろんの事、避難される高齢者にも、そういった支援の必要な方への配慮は当然必要だと思うので、ご意見をしっかり受けとめて、必要な整備を進めてまいりたい。

【 B 委員 】

いわゆる防災意識を、組織の全体に意識づけることは、難しいことだと感じている。

私も自主防災会の会長をやっているが、組織を立ち上げて 20 年近くなるが、それでも地区民が、防災を意識して動こうというところまではいけないと思う。

なぜ、組織を立ち上げたかという、災害の痛みが分かる皆さんがいたから、何とかしなければいけないと組織を作ったが、実際の防災訓練を毎年やっているけれども、それが全体へ繋がっていて本当に意識が高まっているかという、そこまで高まっていないというのが現状。

例えば、避難所が開設されると、開かれたところに顔を出しているが、前回の台風の時でも、地区全体で 10 人ぐらいである。市全体でも、私の地区の避難者が一番多かったという現状である。

要するに、避難という意識もないし、周りの者も、早く避難しなきゃいけないという意識がないということだろう。

8月3日、4日に小・中学生を対象に防災キャンプを行った。地区の女性部には炊き出しをやってもらったり、消防団にはロープワークをやってもらったり、いろんなことをしてもらった。防災キャンプの中に地域の者が絡んでいて協力しているという体制を小・中学生に見せることが私は良かったと思う。

地域としては、小・中学生に、地域はあなた方を見ているよと、いずれあなたがたが大人になった時、あるいは大きくなった時に、あなたたちに期待していることを強く言ったつもりである。私はそういう意味では、小・中学生にとってもいい体験であったと思う。

#### 【 山本会長 】

小野地区がしっかりした防災訓練をやられていた。そこでは、小・中学生も避難所の受付をされていた。そういう意味で非常に地域一体となって、うまくやっていると思っていたが、それでも底上げができない問題があると聞きそうしたら、防府の他の地区はどうなのかなと思う。

#### 【 E 委員 】

私のところは、命に関わる講座をたくさんやっている。この夏休みは13日間行った。延べ約500名参加された。昨日は、110番、119番の講座を行った。要は、何でもかんでも110番、119番にかけると逼迫して、本当に救わないといけない人を助けることができない、到着時間が遅れるといったこともあるので、緊急通報について行った。この7月には、1泊2日で30名弱の泊まり込みを行った。経年的にやっている。

これまでのお話を聞きながら、住民の全体までなかなか情報がいかない、意識もそこまで至らないということがあるので、そこは私ども防災士会の役割だろうということを強く認識を持った。今、会員が250名を超えているが、各地域でいろんなイベントがある中に、例えば運動会がある、祭りがあるっていう中に防災コーナーを設け、いろんなことをやろうと今動いている。

避難者も少ないとあったが、避難について私が思うに、例えば、今年も、全国では豪雨に見舞われているが、死亡者が減っていると思う。数年前は、川が氾濫すると何十人規模で亡くなっていた。今年を見たら数人である。ということは、やはりそこは早めに避難するということについては、世の中の的にかなり浸透してきたと私個人は思っている。

いろんな場を通じながら、活動していくことが、そこに繋がっていくと思っており、改めて私どもの役割を認識した。

#### 【 山本会長 】

災害時に人命が亡くなることは悲しいことである。今年も内水氾濫が割と多い。他県でも内水氾濫があったが、高くても1.5m程度であったため、住宅が流されることも、2階まで浸水することは無かった。

2019年の台風19号や人吉の豪雨といった外水氾濫では、家が流されることもある。そういう意味では、災害によって様相が違うということを考えることが非常に大事である。

私も、災害調査を多くしているが、それぞれ違う。雨の降り方も地域によって違う。それぞれ地区の規模も違うし、地形的な条件も違う。また、年齢構成も違う。だから災害が起こる

といろんな問題がある。先進的なところの事例を取り入れながら、自分の地域に合った展開をしていくことは非常に大事である。

浸水場所について、地域全体でマップを作ると浸かるなということは分かるが、本当に避難するかというと避難しないし、高齢者の方、1人住まいの方となかなかうまく繋がっていかない問題があるが、これをどうするのか進んでいない状態である。

そういう意味で、起こりうる災害を可視化し、その時にどのような形で自分たちは発災前直前から発災復旧を考え、タイムラインをしっかりと作って実行していく。そのためには、平時から地域ごとに考えていくことが大事だが、なかなかそれが進んでいない。地道にやってみるしかない。

#### 【 F 委員 】

佐波川防災広場の大きさが分からなくて、メバル公園みたいに子どもたちが遊べるような遊具を設置されるのかどうかもまだ検討段階かもしれないが、例えば、遊具ができるにしても空き地にマルシェやフリーマーケットなどにより、滞在できるものがあればお年寄りも足を運んで来るし、子供や若者も行きやすいと思う。

防府市は、キッチンカーが多いと聞いているので、キッチンカーも行きやすいように、電気の整備や水場を整えれば、いろんな年代の方が来られる。それによって、ここは避難ができる防災を学ぶPRにもなるかなと思う。

#### 【 事務局 】

第一の目標は防災広場として、防災広場の機能を間に合わせることもある。7年度は、第一の目標ということでギリギリになると思うので、今いただいたご意見をしっかりお預かりして、その次のステップで、先ほどの話になると思う。

#### 【 山本会長 】

このほかご意見あるか。

無いので、進行を事務局に返す。

#### 【 事務局 】

本日は貴重なご意見をいただき、誠に感謝申し上げます。

次回会議の開催は、11月頃を予定しているが、本日いただいたご意見等を事務局で整理したうえで改めてご案内する。